

水は誰のものか。 水道事業民営化の光と影

日本企業と全く違う「ウォーター・バロン」の発想

上下水道事業への民間参入は、80年代後半から欧州を中心に拡大してきた。今のところ、世界の多くの国で水道は公共セク

ターが運営しているが、運営・維持・管理コストの削減と効率化を目的とした民間への事業委託は増加している。

現在、世界の民営化された上下水道事業では、「ウォーター・バロン」と呼ばれるスエズとヴ

エオリア・ウォーターというフランス系企業2社が、70%以上のシェアを握っている。特にヴェオリアは、アジア市場開拓に力を注いでおり、07年10月には中国天津市最大の水道会社の株式49%を取得するなど、事業拡大を進めている。

グローバルウォーター・ジャパン(GWJ)代表で、国連テクニカルアドバイザーを務める吉村和就氏はこう説明する。

「海外の大手水道事業会社は、上下水道の維持・管理で収益を上げるビジネスモデルを採用しており、装置や材料などの製品を売って儲ける日本企業とは根本的にスタイルが異なります。彼らにとっては、水処理装置などのモノは安くても構わないので

す。水道は100年インフラなので、それを日々メンテナンスすることで、長期にわたって日銭を稼ぐというのが基本的な考え方です」

こんな話がある。東京都はステンレスの水道管を末端まで張り巡らせ、世界でも群を抜く低い漏水率を達成しているが、これを聞いた途上国の人は「水道管にステンレスを使うなんて、なんともつたいないことをするのか」と驚いたという。この意識の違いこそ、技術的に日本企業に決して勝っているとは言えないウォーター・バロンが、世界市場でシェアを拡大できる土壌とも言える。水道事業では、必ずしも技術力イコール競争力ではない。

製品で稼ぐ日本企業のビジネスモデルについては、
「今後は、水事業全体の3割以上を海外で稼ぐようでない」と、日本企業の生き残りは難しいでしょう」

と、吉村氏は指摘する。



吉村和就・GWJ代表

民営化が水道インフラの 安全性を脅かす危険性も

さて、わが国における上下水道の事業環境はどうか。日本では、02年の水道法改正をきっかけに民間開放が始まり、ウォーター・バロンのように水道事業の維持・管理を中心に据えるビジネスモデルで勝負しようとする国内企業も表れた。しかし、その多くは依然として事業の先行きが見えない状況が続いている。

る。「法改正でビジネスチャンスが広がる」と期待したが、当初想定していたより自治体からの発注件数が少ない(国内水道事業会社)

というのが、その理由だ。

日本では、「水道事業は公共セクターが行うもの」という意識が依然として根強く残っており、同じ基幹インフラでも、電力やガスに比べると、いまだに参入障壁は高い。

となった。

「日本では、これまで水道に約38兆円、下水に約75兆円投資してきましたが、これらが2030年前後に一斉更新の時期を迎えます。維持管理のビジネスはその後本格化する見込みです。今は参入が難しくても、長期的に見れば、ヴェオリアが日本でシェアを拡大する可能性はあります」(吉村氏)

日本では水道事業を丸ごと民間委託した例はまだないが、仮にヴェオリアのような外資系企業が、水道事業の根幹部分である維持・管理まで任せられるということになれば、大きな波紋を呼びそうだ。

よって事業の効率化が進んでも、水道事業は一度参入に成功すれば長期にわたって特定地域のインフラを独占できる特殊な分野であるため、やはり不安は拭いきれない。

とはいえ、公共セクターに任せておけばすべて安心というわけでもない。上下水事業や水処理施設を巡る官製談合は相変わらず続いており、この6月にも札幌市発注の水処理施設の電気設備工事で、大手電機メーカー数社が談合を繰り返していた事実が発覚したばかり。

上下水道向けの子算は、95年当時と比べると現在は約2分の1に削減されているが、事業者の数はほとんど減っていない。このため過当競争に陥り、談合の温床となっている実態がある。

こうした不祥事が今後も相次ぐようだと、おのずと民営化への気運が高まることになるだろう。日本の上下水道事業がどちらの方向に進むのか、今まさに端境期にある。

ヴェオリア・ウォーターの概要

2007年度売上高
109億ユーロ

従業員数
8万3,000人

地域別売上比率

欧州75%、アジア9.4%
アフリカ・中東・インド9.3%
米国6.3%

上下水道事業参入実績

約55カ国

そんな日本市場だが、ヴェオリアの日本法人であるヴェオリア・ウォーター・ジャパンが5年前に進出し、徐々に攻勢を強めつつある。07年7月にはJパワーと共同で、福岡県大牟田市と熊本県荒尾市の水道事業運営に参画すると発表。さらに08年1月には、西原環境テクノロジの株式51%を取得し、本格的に上下水道事業に参入すること